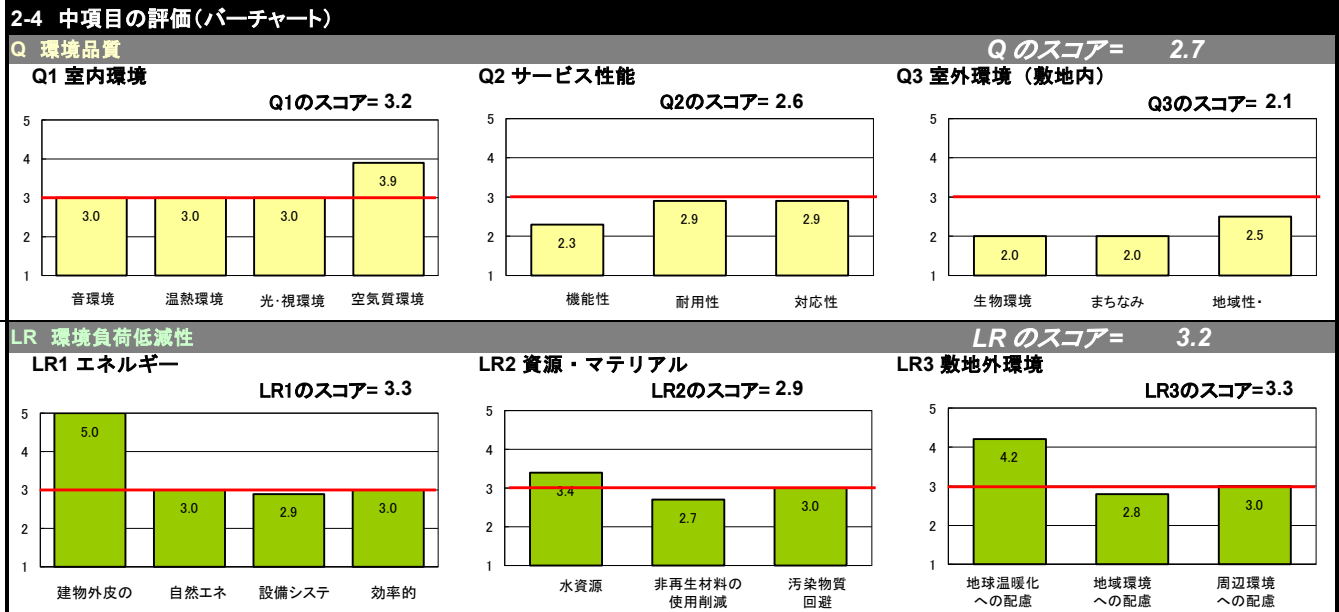
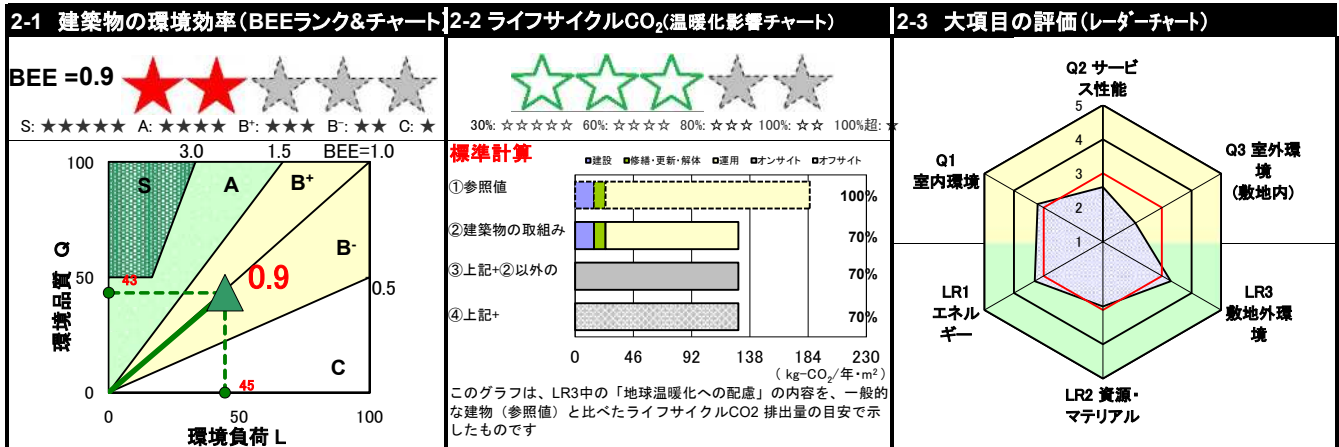


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25018

建築物名称	宮前平計画新築工事
建築主	大和ハウスリアルティマネジメント株式会社 代表取締役 伊藤 光博
建築物の所在地	川崎市宮前区宮前平一丁目8番8
設計者氏名、建築士事務所名	朴 宣圭 大和ハウス工業株式会社南関東流通 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,706.94㎡
用途	飲食店舗、保険薬局、診療所(患者の収容施設のないものに限る)、フィットネスジム、認可外保育園、自動車車庫、自転車駐車場
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了予定年月	令和8年8月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観		25018
建物名称	宮前平計画新築工事	階数	地上3F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	神奈川県川崎市宮前区宮前平一丁目8番8	構造	S造	
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	未定 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店,飲食店,病院,等	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年8月 予定	評価の実施日	2025年7月25日	
敷地面積	1,222 m ²	作成者	朴 宣圭	
建築面積	923 m ²	確認日	2025年7月25日	
延床面積	2,707 m ²	確認者	朴 宣圭	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.7/4.3	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.7
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.6/0.9	3.0
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.9/2.3	2.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m 0.50	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.7/4.7	2.9
2 非再生性資源の使用量削減	壁・天井: 躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS+GB-R)		
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	更新必要間隔の長い配管材を採用	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.3/4.0	2.9
2 非再生性資源の使用量削減	壁・天井: 躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS+GB-R)		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.9/2.3	2.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m 0.50	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.6**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m 0.50	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄		評価点		重み係数		全体							
配慮項目	G	W	R	H								評価点	重み係数	評価点	重み係数			全体						
																			Q 建築物の環境品質					
Q1 室内環境																			3.2					
1 音環境																			3.0					
1.1 室内騒音レベル																			3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音																			3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能																			3.0	0.59	-	-		
2 界壁遮音性能																			3.0	0.35	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																			3.0	0.03	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																			3.0	0.03	-	-		
1.3 吸音																			3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境																			3.0					
2.1 室温制御																			3.0	0.50	-	-		
1 室温																			3.0	0.48	-	-		
2 外皮性能																			3.0	0.22	-	-		
3 ゾーン別制御性																			3.0	0.30	-	-		
2.2 湿度制御																			3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式																			3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境																			3.0					
3.1 昼光利用																			3.0	0.63	-	-		
1 昼光率																			3.0	0.24	-	-		
2 方位別開口																			3.0	0.76	-	-		
3 昼光利用設備																			3.0	0.12	-	-		
3.2 グレア対策																			3.0	1.00	-	-		
1 昼光制御																			3.0	0.06	-	-		
3.3 照度																			3.0	0.19	-	-		
3.4 照明制御																			3.0	0.19	-	-		
4 空気質環境																			3.9					
4.1 発生源対策																			4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質																			4.0	1.00	-	-		
4.2 換気																			3.0	0.30	-	-		
1 換気量																			3.0	0.46	-	-		
2 自然換気性能																			3.0	0.07	-	-		
3 取り入れ外気への配慮																			3.0	0.46	-	-		
4.3 運用管理																			5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視																			-	-	-	-		
2 喫煙の制御																			5.0	1.00	-	-		
内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用																			4.0	1.00	-	-		
全館禁煙																			5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能																			2.6					
1 機能性																			2.3					
1.1 機能性・使いやすさ																			3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性																			3.0	0.03	-	-		
2 高度情報通信設備対応																			3.0	0.03	-	-		
3 バリアフリー計画																			3.0	0.94	-	-		
1.2 心理性・快適性																			1.7	0.30	-	-		
1 広さ感・景観																			2.7	0.36	-	-		
2 リフレッシュスペース																			2.0	0.09	-	-		
3 内装計画																			1.0	0.55	-	-		
1.3 維持管理																			2.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計																			2.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保																			2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性																			2.9					
2.1 耐震・免震・制震・制振																			3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																			3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能																			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数																			3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数																			3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																			2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																			3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																			3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																			5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔																			3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性																			2.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備																			3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備																			3.0	0.20	-	-		
3 電気設備																			3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法																			1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備																			2.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性									2.9	0.30	-	-	2.9
	3.1 空間のゆとり									2.4	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり									2.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ									3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり									3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性									3.2	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性									3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性									3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性									5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性									3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性									3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保									3.0	0.20	-	-	
	ケーブルラックの採用									5.0	0.10	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)									-	0.34	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	G	W			H	-			2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	G					-			2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮						-			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上						-			3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W			H	-			2.0	0.50	-	-	
	LR 建築物の環境負荷低減性									-	-	-	-	3.2
	LR1 エネルギー									-	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		W			H	-	BPIm0.50		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		W			H	-			3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W			H	-			2.9	0.50	-	-	2.9
	集合住宅以外の評価									2.9	1.00	-	-	
	集合住宅の評価									-	-	-	-	
4	効率的運用									3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価									3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-			3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-			3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価									-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-			-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-			-	-	-	-	
	LR2 資源・マテリアル									-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護		W			R				3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水							自動水栓に加え、節水型便器を採用		4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無									3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減									2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1 材料使用量の削減		W			R	-			2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W			R	-			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			R	-			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			R	-			1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W			R	-			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			R	-	壁・天井: 躯体と仕上材が容易に分別可能		4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避									3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避									3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W							-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W							3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W							3.0	0.50	-	-	
	LR3 敷地外環境									-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		W					ライフサイクルCO2: 70%		4.2	0.33	-	-	4.2
2	地域環境への配慮									2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止							燃焼機器使用無し		5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W			H	-			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制									2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R	-			3.0	0.25	-	-	
	2 污水処理負荷抑制					R	-			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R	-			3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R	-			1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮									3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0	0.40	-	-	
	1 騒音									3.0	0.50	-	-	
	2 振動									3.0	0.50	-	-	
	3 悪臭									-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制									3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制									3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制									-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制									3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制									3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0	-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-

LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	5.0	-	1.0	-	-	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能	窓システムSC- 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -														
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%														
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口率 0.0%														
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡														
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡														
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m														
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 2.0%														
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 25 年														
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 15 年														
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年														
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年														
3.1.1 階高のゆとり	階高 0 m														
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.0%														
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2														
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 22% 建物緑化指数 5%														
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 23% 水平投影面積率 16% 地表面対策面積率 6% 舗装面積率 0%														
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPIm 0.50 斤熱等性能等級 対象外 相当														
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0 採光を満たす住戸数 0 通風を満たす教室数 0 通風を満たす住戸数 0														
3 設備システムの高効率化	太陽光 #REF! 太陽熱等 #REF! 蓄電池 #REF!														
3a.3t 非住宅部分	BEI/BEIm 再エネ 0.65 無 0.70 オフサイト再エネ有 0.30 -														
3b.c 集合住宅の評価	一次エネ削減再エネ 無 -														
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%														
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -														
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%														
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)														
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)														
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 8														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 113% 棟間隔指標Rw 0.55 地表面対策面積率 10.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 393㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 34.3 m 基準高さHb 12.22 m 緑地 27㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡														